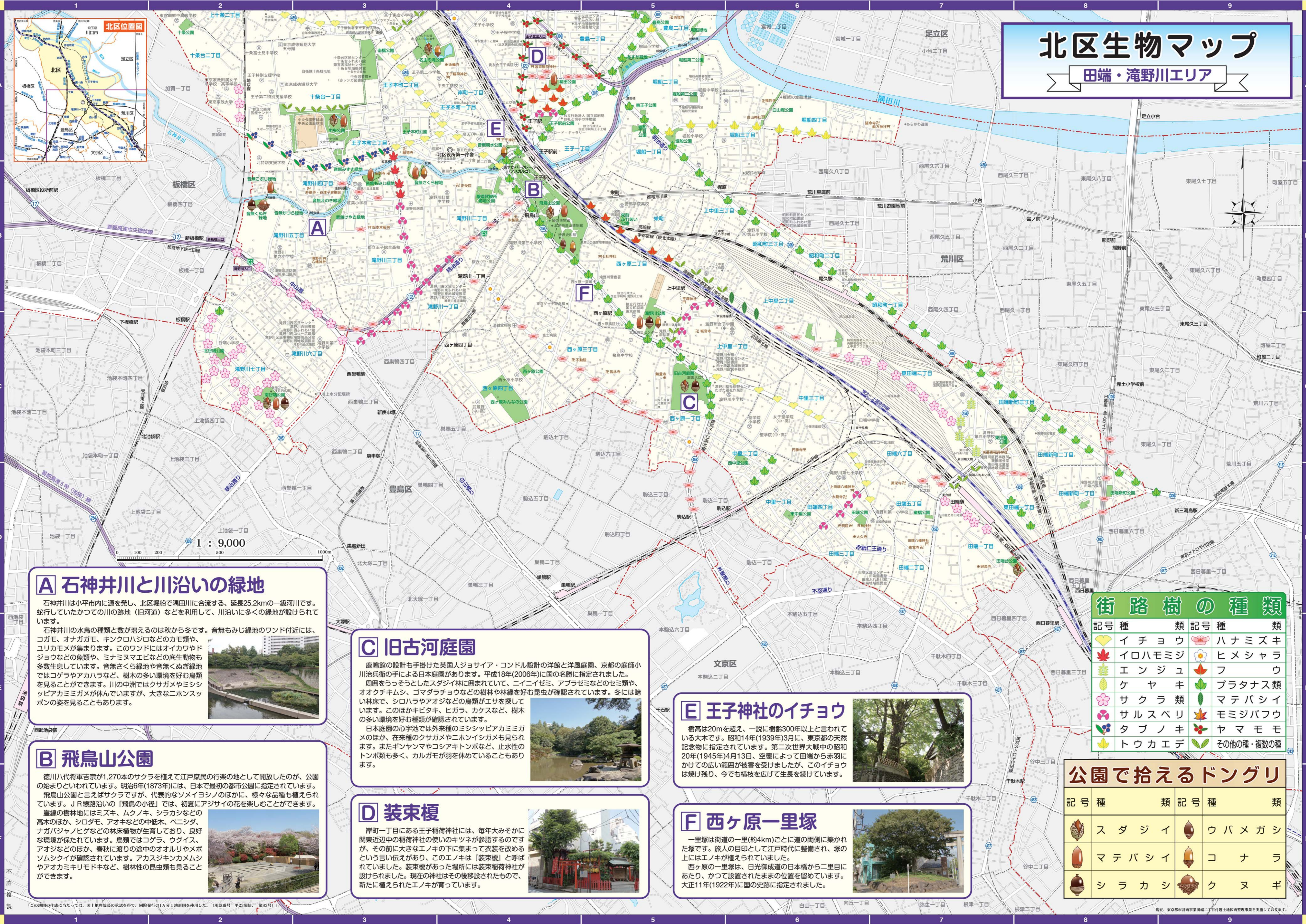


北区生物マップ

田端・滝野川エリア



A 石神井川と川沿いの緑地

石神井川は小平市内に源を発し、北区堀船で隅田川に合流する、延長25.2kmの一級河川です。蛇行していたかつての川の跡地(旧河道)などを利用して、川沿いに多くの緑地が設けられています。

石神井川の水鳥の種類と数が増えるのは秋から冬です。音無もみじ緑地のワンド付近には、コガモ、オナガガモ、キンクロハジロなどのカモ類や、ウリカモが集まります。このワンドにはオイカワやドジョウなどの魚類や、ミナミヌマエビなどの底生動物も多数生息しています。音無さくら緑地や音無くぬぎ緑地ではコケラやアカハラなど、樹木の多い環境を好む鳥類を見ることができます。川の中洲ではクサガメやミシシッピアカミミガメが休んでいます。大きなニホンズツボンの姿を見ることがあります。



B 飛鳥山公園

徳川八代将軍吉宗が1,270本の桜を植えて江戸庶民の行楽の地として開放したのが、公園の始まりといわれています。明治6年(1873年)には、日本で最初の都市公園に指定されています。飛鳥山公園と言えば桜ですが、代表的なソメイヨシノのほか、様々な品種も植えられています。JR線沿いの「飛鳥の小径」では、初夏にアジサイの花を楽しみることができます。

崖線の樹林地にはミズキ、ムクノキ、シラカシなどの高木のほか、シロタモ、アオキなどの中低木、ヘニシダ、ナガバジャノヒゲなどの床植物が生育しており、良好な環境が保たれています。鳥類ではコケラ、ウグイス、アオジなどのほか、春秋に渡りの途中のオオルリやメボソムシキが確認されています。アカスジキンカメムシやアカミキリモドキなど、樹林性の昆虫類も見ることができます。



C 旧古河庭園

鹿鳴館の設計も手掛けた英国人ジョサイア・コンドル設計の洋館と洋風庭園、京都の庭師小川治兵衛の手による日本庭園があります。平成18年(2006年)に国の名勝に指定されました。周囲をうっそうとしたスタジイ林に囲まれていて、ニイニイゼミ、アブラゼミなどのセミ類や、オウチキムシ、ゴマダラチョウなどの樹林や林縁を好む昆虫が確認されています。冬には暗い林床で、シロハラやアオジなどの鳥類がエサを探しています。このほかキビタキ、ヒガラ、カケスなど、樹木の多い環境を好む種類が確認されています。

日本庭園の心字池では外来種のミシシッピアカミミガメのほか、在来種のクサガメやニホンシガメも見られます。またギンヤンマやコシアキトンボなど、止水性のトンボ類も多く、カルガモが羽を休めていることもあります。



D 装束榎

岸町一丁目にある王子稲荷神社には、毎年大みそかに関東近辺中の稲荷神社の使いのキツネが参詣するのですが、その前に大きなエノキの下に集まって衣装を改めるという言い伝えがあり、このエノキは「装束榎」と呼ばれていました。装束榎があった場所には装束稲荷神社が設けられました。現在の神社はその後移設されたもので、新たに植えられたエノキが育っています。



E 王子神社のイチョウ

樹高は20mを超え、一説に樹齢300年以上と言われている大木です。昭和14年(1939年)3月に、東京都の天然記念物に指定されています。第二次世界大戦中の昭和20年(1945年)4月13日、空襲によって田端から赤羽にかけての広い範囲が被害を受けましたが、このイチョウは焼け残り、今でも横枝を広げて生長を続けています。



F 西ヶ原一里塚

一里塚は街道の一里(約4km)ごとに道の両側に築かれた塚です。旅人の目印として江戸時代に整備され、塚の上にはエノキが植えられていました。西ヶ原の一里塚は、日光御成道の日本橋から二里目にあたり、かつて設置されたままの位置を留めています。大正11年(1922年)に国の史跡に指定されました。



街路樹の種類

記号	種	記号	種
🍌	イチョウ	🌸	ハナミズキ
🍁	イロハモミジ	🌼	ヒメシャラ
🌿	エンジュ	🍂	フウ
🌳	ケヤキ	🌱	プラタナス類
🌸	サクラ類	🌿	マテバシイ
🌸	サルスベリ	🌼	モミジバフウ
🌿	タブノキ	🌸	ヤマモモ
🍌	トウカエデ	🌿	その他の種・複数の種

公園で拾えるドングリ

記号	種	記号	種
🌰	スダジイ	🌰	ウバメガシ
🌰	マテバシイ	🌰	コナラ
🌰	シラカシ	🌰	クヌギ

この地域の作成に当たっては、国土院院長の承認を得て、同院発行の1万分1地形図を使用した。(承認番号 甲23環境、第83号)

現在、東京都計画部第二回(2021年)土地利用計画事業を実施しています。